

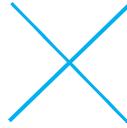
合唱をやったことがないけど、 大学からでも大丈夫？



—そんな不安に答えます—

商学部4年合唱未経験

矢澤舞子



文学部3年合唱未経験

阿竹俊哉

1

松葉「これからインタビューを始めたいと思います。まず自己紹介をお願いします。」

矢澤「慶應義塾大学商学部4年の矢澤舞子です。パートはアルトです。」

阿竹「僕は慶應義塾大学文学部倫理学専攻の3年生の阿竹俊哉です。パートはトップテノールです。」

松葉「ありがとうございます。楽友会での役職も教えていただけますか？」

矢澤「今は副幹事長という役職についていて、団のリーダーが幹事長、その副なのでサブリーダーというようなポジションです。仕事の時は幹事長がいない時に団を代理で仕切ったり、演奏会の楽屋設営に絡む仕事をしたり、演奏会の招待状を発送するとかをしています。」

阿竹「僕は総庶務という役職なのですが、総庶務は基本的には場所取り（練習場の確保）をします。あとは演奏会があったときに宣伝販促藩というのに入り、チケットを扱う仕事をしています。」

松葉「ありがとうございます。そしてインタビューアーは松葉、榊原です。」

松葉「では早速質問に入りたいと思います。まず中学や高校時代では部活動で何をしていたのか教えてください。」

矢澤「中学はイラスト漫画部っていうところに入って週1で活動していました。高校も天文気象部っていう週1の部活で、正直部活は入る気なかったけど親に入れて言われたから入ったみたいな感じで、ゆるゆる活動していました。」

松葉「そうだったんですね、天文気象部って何してる部活だったんですか？」

矢澤「なんかね、凄そうな名前してるけど実際は夜に星の写真撮ってるだけだったかな（笑）。」

阿竹「知らなかったです（笑）。」

松葉「阿竹さんはどうでしたか？」

阿竹「僕は、中学も高校も陸上部でした。」

松葉「ええっ、そうだったんですか！」

矢澤「中学からだったんだね。」



商学部 4年 矢澤舞子さん

松葉「ちなみに種目は何だったんですか？」

阿竹「種目は、短距離と幅跳び跳躍をやりましたね。」

矢澤「結構忙しい感じ？」

阿竹「そうですね、基本週6で中学の時は朝練もあって……。

あと一応どっちも部長でした。だからガッツリ陸上ですね六年間。まあ目立った成績はあまり残さなかったですけど。」

松葉「運動ってだけですごいです。では、逆に中学や高校で何か音楽はやってましたか？」

矢澤「小学生の時に一応若干楽器やったりしてたけど、でもまあそういうのは中高でスルスル抜けて実質何もやってなかったみたいな感じかな。楽譜も楽友入りたての頃は忘れてて全然読めなかった。」

阿竹「中学の頃は小学校から習っていたバイオリンを3年間続けていて、でもバイオリンはト音記号しか使わないのでヘ音記号が読めないんですよ。だから、ピアノとか全く弾けなくて楽譜だけ読める状態でした。高校に入ったらバイオリンはちょっとフェードアウトして高2と高3の時にバンドでボーカルやってました。」

矢澤「あっじゃあ歌はやってたんだね。」

阿竹「そうですね、そんな感じです。」

松葉「なるほど、要するに楽友会に入るのに音楽経験はあまり必要ではない感じですかね（笑）。」

阿竹「ちょっとやってたとか、そのぐらいで全然いけますね。」

みんな本当に温かい。それが楽友会の魅力だと思う。

松葉「ところで、大学に入ってなぜ楽友会に入ろうと思ったのか教えていただきたいです。」

矢澤「私の場合はもともとカラオケとかで歌を歌うのが好きだったから、学祭とかではアカペラがかっこよくて、慶應でも WALKMEN に入ろうかなと思ってたんだけど（笑）。新歓で楽友会に勧誘されて行ってみたら雰囲気良くて魅了されてそのまま入っちゃいましたね。」

阿竹「最初は兼サーされてたんですよね？」

矢澤「そうそう、WALKMEN にも入ってたんだけどね、こっちの雰囲気がよくて……って感じに（笑）。」

松葉「阿竹さんはどうですか？」

阿竹「うーん、まあ一応楽譜読めたのと歌が好きだったのもあったんだけど、元々はバンドか陸上同好会かに入ろうかなと思ってて、だから楽友会は合唱がやりたかったとかじゃなくて勧

誘われて知った感じ。中学とかでもどっちかっていうと合唱コンクールとかそんなにまじめにやる方じゃなかったし、何なら女子に怒られてる側だったから（笑）。でもほんとに楽友の人の良さにおされて、先輩方面白いしこの団体いいなと思って入った感じかな。」

矢澤「人の良さはほんとにあるよね。」

榊原「あんまり関係ないんですけど、みんなの話を聞いててももちろん合唱経験者や合唱に興味がある人が楽友会に入るのは分かるんですけど、阿竹さんのような人が入るのってすごいなって思います。」

松葉「ほんとそれ思う！」

阿竹「確かに。でもそういえば新しいこと始めたいとは思ってたかな。」

榊原「でも合唱はどちらかといえばあまり好きではなかったわけですよね。」

阿竹「うん、合唱曲とか全然知らなかったし。2年ぐらいたってやっと合唱の楽しみ方がわかってきた気がする。」

矢澤「やっぱり、人って凄い大事な気がする。」

阿竹「ほんとそうです、でもなんか楽友ってちょっと特殊な気もします。」

矢澤「たしかに、大規模なサークルだと同期とは仲いいけど先輩とはあんまりだったりするけど、楽友はいちよん旅行があったりするぐらい先輩後輩の仲もいいし、練習でもみんな距離が近くて、みんな本当に温かい。それが楽友会の魅力だと思う。」

松葉「人の温かさは本当に感じますね。」

そもそもソロってというのが合唱界で花形ってことを知らなかったんですよ。

松葉「では今度は楽友会に入って大変だったことをお聞きしたいのですが何かありますか？」

矢澤「私の場合はやっぱり音楽知識が全然なかったから、最初は演奏会とかあるごとに達成感はあるけど食らいつくの必死な感じもあって、それはちょっと大変だった。でもそれにただがむしゃらに立ち向かうんじゃなくてとりあえずすぐに調べて書き込むことでどうにかなったかな。わからなくても調べればわかることが多いし、音がパツと読めなければ音名を楽譜に書き込んでみたりとかね。」

松葉「努力ですね……。」

矢澤「（笑）。でも、自然にそういうことができるようになっていくから最初は気にしなくていいと思うよ。」

松葉「阿竹さんは何かありますか？」



文学部3年阿竹俊哉さん

阿竹「やっぱり扱う曲が結構多いなと思ったかな。発声とか教えてもらったのも初めてでそういうものを身に着けるのが難しい。今までは体を動かすものやってくる身についてたものは記録として出るから、感覚としてわかりやすかったけど、歌ってゴールが見えないし、人によって言ってることも違うから、自分で教えてもらったものを消化して表現するのって難しいんだなって最近はある。でも入団当時は全然そんなこと思ってなかったかも（笑）。最初にそういうことに気が付く人もいるかもしれないけどね。」

松葉「そうですね、でもその見えないからこそ感じる難しさっていうのは合唱を何年やっても思うことだとも思うので、そういう意味では合唱未経験だからここがつかってというような特別なことは意外とないかもしれないですね。」

阿竹「そうだね、自分は楽譜を読めたのもあるけど、楽譜をちゃんと読めるようになれば大学の合唱団なら後は大丈夫だし経験の有無にかかわらず楽しめるんじゃないかと思うね。」

松葉「矢澤さんはソロもやられたりしてますよね、どうしたらそんな風になれるんでしょうか……？」

矢澤「そうだね、うーん、でも私正直2年の時とか自分の歌に自信がなくて、自分では結構歌ってるつもりでも成長を感じられなくて、人から褒められたこととかもあんまり記憶がないんだけど、でも焦らずマイペースに頑張ろうと思って地道にやっていたら3年の最初ぐらいから褒められるようになって、そのおかげで自信がついてもっと頑張ろうって思えたかな。それでソロの話が合って、当時の学生指揮者の頼人さんが『選ばれることだけが目的じゃない』って言ってくださって、ころ（今年度の学生指揮者）とかも応援してくれたから、じゃあやってみようかなと思って挑戦することにしたんだよね。ソロに向かって練習することで自分のレベルも上がっていった気がした。どうしたらなれるかっていうと難しいけど、やっぱりずっとやっていると大学入る前に経験してたかどうかであんまり関係ないのかもなって思えるようになると思う。最初はギャップがあるかもしれないけど、誰でもみんな同じ練習をしていく仲間だからいつか同じ土俵に立てると思うし、どんなにスタート地点が低いと思う人でも自分の頑張り次第で成長できると思うな。」

松葉「焦らずにって感じですね。」

矢澤「うん、焦らずに努力してれば結果はついてくるので安心してください、って感じかな？（笑）」

松葉「なんか受験みたいな話になっちゃいましたね。」

全員「（笑）。」

松葉「まあでも本当に周りと比べるんじゃなくて自分の声と向き合うことが大切ってことですよ。」

矢澤「いいまとめだ（笑）。」

松葉「ありがとうございます（笑）。」

阿竹「それでいうと僕もソロのオーディションにこの前初めて出たんですけど、入った当初はそもそもソロっていうのが合唱界で花形ってことを知らなかったんですよ。」

全員「ああ〜。」

阿竹「だからソロに対するこだわりとかも別になかったんですけど、合唱をやっていくとやっぱり同期のうまいやつとかがいて、そういう人の真似をするところから始めましたね。発声とかも声真似から入るみたいなの。」

全員「おお〜なるほど。」

阿竹「そうするといつの間にか、特に合宿とかでターニングポイントが来て、そういう時に成長したねって言われて変わっていくことに気が付くみたいな感じですね。個別オーデ（上級生との一対一の練習）の時に奥村さん（テナーパートリーダー）に見てもらって、その時言われたことを実践していくうちに自分の発声っていうのがやっとなんか、こういうことなんだなってわかってきて、そこではじめてソロってこの自分の発声の仕方であんなに歌うものなんだなって理解して。そりゃやっぱソロスゲーわってなりましたね（笑）。で、やっぱりやってみたいなのと思ってオーディションに参加しました。ただやっぱり未経験かどうかであんまり関係ないと思って、結局最初は真似してればいつの間にか自分のものになっていくから気にしないでいいと思いますね。まあすぐに習得できるわけではないですけど、真似する精神っていうのを大切にするのがいいんじゃないかと思います。」



松葉「たしかに上級生や同期の経験者も周りにたくさんいるわけですから、真似する対象はいっぱいいるのでいい環境ですね。ソロのほかにも、重要な役職についてらっしゃいますが未経験者だからこの役職にはなれない、とか感じたことはありますか？」

2人「全く無いですね」

松葉「今実際、技術さんでも未経験の方がいらっしゃいますものね。」

やっぱり、いい仲間恵まれてるなっていうのが入れて良かったなというところです。

松葉「楽友に入って良かったなと思うところを教えてください。」

矢澤「私はやっぱり、いい仲間恵まれてるなっていうのが入れて良かったなというところです。中高の時にゆるい部活をやっていて、1つのことに打ち込む的なことをやったことがなかったけど、そんな時にたまたま楽友会に入って、凄く色んな人がいて様々な視点で色んな刺

激、経験が生まれているので、すごく心地よくて入って良かったなって思います。周りの上手い人に追いつきたいっていう刺激をもらったり、練習面だけでなく運営面でも意見を言い合ったり、もちろんプライベートでも。」

阿竹「んー、一つはやっぱり自分の仲間が、人柄が良いっていうのが入った理由で、その予想は的中したなと思う。新歓の時のちょっとした会話だけで良さを感じて、いざ入ってもっと同期とか先輩とかと話していると、ほんとに面白い人たちばかり。他のサークルにふれてないものもあるんだけど（笑）。ほんとに个性的で誰をとっても面白いなっていう人が一杯いて、合唱に限らず、色んな方面で、刺激を受けられる環境にいられているなって。で、そんな仲間と合唱と一緒に演奏会作り上げていくのって充実感も得られるし。僕は定期演奏会だけにフォーカスした楽しさよりは、コミュニティ全体として素晴らしい団体だなっていう風に思えるかな。」

全員「確かに。」

阿竹「素晴らしい人ばっかなんだよね。」

矢澤「うん、こんな良い人達に恵まれることめったにないよね。」

阿竹「たぶんこの団の特徴なんだろうな。毎年こんな良い人たちが入ってくるっていう…なんかそういう雰囲気をもった団体なんだろうなと思います。」

全員「んー。」（しみじみ）

阿竹「あ、あとは単純に行事が楽しい！やっぱそういう人達と、ずっと泊まりで夜まで話せる、こういう時間は貴重だなあと思うから。」

矢澤「うん、練習だけじゃ無いよね。」

松葉「泊まり行事の話でいくと特徴として楽友は合宿が多いじゃないですか、それとかも関係してそうですね。」

全員「そうそうそう。」

合唱サークルっていうと合唱ばかりやってるって思われがちなんだけど、

松葉「さて、では最後に新入生に一言お願いします。」

阿竹「合唱サークルっていうと合唱ばかりやってるって思われがちなんだけど、そこは全然違うよっていうのをわかってほしい。そんなの固定観念だと思うから。部活みたいな風に考えるよりは合唱やりつつ、自分の好きなように生活できるっていうか、いられる場所？な気がするんですよ。僕はそういう風に捉えてるから。合唱やんなきゃいけないんだっていう気持ちはある意味そんないらぬ気がするんだよね、楽友会は。他の例えばワグネルとかと比べた時もなんか、なんだろうな本当色んな人がいるから、どんな人でも入れるよっていうっていうの

を強調したいかな。合唱に身を捧げている人もいるけど、そうじゃない所でちゃんと結果残してるひともいるし、それが特徴なのかな。」

松葉「誰にとっても居場所になるサークルってことですね。」

矢澤「きっとこれを読んでくれる新入生は多少なりとも楽友会に興味を持ってきてるんだと思うんだけど、この雰囲気いいなとか思ってくれたらぜひ、騙されたと思ってでも一度楽友会に足を運んでみてほしい。私みたいに合唱は堅そうとか思ってた人でも実際に見に行ってみたら自分が知らない合唱の面がたくさんあって面白いと思えるんじゃないかと思うから。あと個人的には大学入って何か新しいことを始めてみたい、打ち込んでみたいっていう人にはぜひ来てみてほしい。ほんとにいいサークルなので（笑）」



たら自分が知らない合唱の面がたくさんあって面白いと思えるんじゃないかと思うから。あと個人的には大学入って何か新しいことを始めてみたい、打ち込んでみたいっていう人にはぜひ来てみてほしい。ほんとにいいサークルなので（笑）」

松葉「ありがとうございました。」